

## 第43巻 グリップの形状が変わることにより握り方も変わる！

パークゴルフ虎の巻を掲載したのが、2005年～2006年で、その頃のグリップの形状は全体的に太く、D型で平らな部分が2㍍の幅がありました。(現在でも、継続販売しているメーカーもあります)その後2007年頃より各メーカーでグリップの研究がなされ最近ではより「ゴルフ」で使用しているグリップに近い形状のものを装着しているクラブが多く出回っています。(D型ではあるが、総体的に細くなっている)

初期のころのグリップの太さ9㍍、ホンマのグリップ8㍍(グリップエンドより10㍍の位置を計測)

虎の巻第3巻「まずは基本から」に握り方を掲載していますが、太いD型グリップの為、右親指の置く位置はセンターとしています。太いD型グリップではそれで良いのですが、細い新しいグリップの場合の右手親指の位置はセンターより左側にずれます。



左よりホンマ、ホンマ、ブリヂストン、ニッタクス

ホンマの2本の太さは8㍍、ブリヂストン8,8㍍、ニッタクス9㍍(グリップエンドより10㍍の位置を計測)



平らな部分が両方とも2㍍であるが、左側の方が角ばっているため広く見える



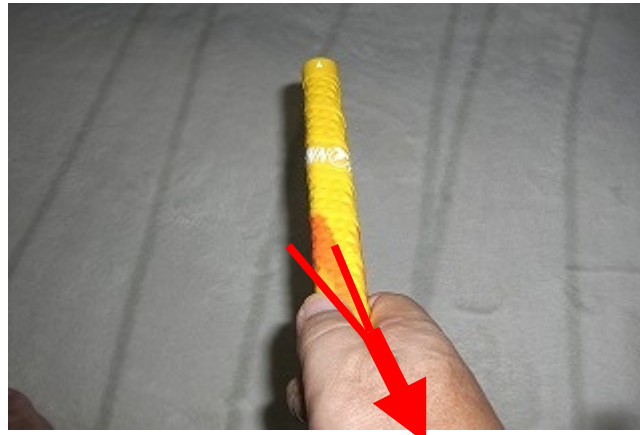
このタイプの親指の位置は、平らな部分に！



細いタイプでは右手が左側にずれます

次に、もう少し突っ込んでグリップを考えてみよう。握り方には大きく分けると下記の3種があります。

### 1、ストロンググリップ



右手親指と人差し指の間の「V」が右肩を指す

### 2、ニュートラルグリップ



「V」が自分の顎を指す

### 3、ウイークグリップ



「V」が左肩方向を指す

要は、自分で握り安いグリップが良いのですが、ごく簡単に大雑把に説明すると、ストロングは、ボデーターンで打ちボールを飛ばしていきたいタイプ用。ニュートラルは、方向性重視用のグリップ。ウイークは、ボールをつぶして絶対ボールを上げたくない場合、及びランニングアプローチに適したグリップといえよう。